

学習指導要領の趣旨を実現する授業づくりのポイント

授業の質を高めるために

中学校【国語】

指導事項の精選

各領域の指導において、言語活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力の育成を図るために

- 当該単元で取り上げる内容に関する前年度までの生徒の学習経験や能力の定着度等を把握する。
- 例えば「書くこと」の学習で「課題設定や取材」から「交流」までの全ての事項に係る活動を位置付けた場合であっても、年間計画や指導に当てる時間数等に応じて、重点的に指導する事項を選定し、指導する。

指導に生きる評価の実践

単元の学習を通して、重点的に取り上げた指導事項（能力）が身に付いていることを生徒に実感させるために

- 例えば、「読むこと」の学習で、教科書教材と生徒自身が選んだ本や文章などを用いて同一単元内に類似した活動を複数回位置付けるなど、指導方法を工夫する。
- 授業改善のための評価については、例えば、座席表等を利用して「おおむね満足できる」状況に達しているかどうかを絞って個々の実現状況を見るなど、簡素で効率的な評価を実施する。
- 「おおむね満足できる」状況に達していない生徒への手立てを工夫する。

中学校【社会】

社会的な見方や考え方の育成

社会的な見方や考え方を育成するために

- 我が国や世界の地理・歴史、法や政治、経済等に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得させる学習を確実に行う。
- 社会的事象の意味、意義を解釈する学習活動や社会的事象の特色や事象間の関連を説明する学習活動を充実させる。

言語活動の充実

社会科の特質を踏まえた言語活動の充実を図るために

- 地理的分野では、地図や地球儀等の資料を有効に活用して、事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したりする学習を計画的に取り入れる。
- 歴史的分野では、各時代の特色やその転換について考察し、自分の言葉で表現する学習を各単元で行う。
- 公民的分野では、自分の考えを論述したり、議論などを通して互いの考えを深めたりする学習を計画的に取り入れる。

中学校【数学】

数学的な見方や考え方の育成

授業を通して、ねらいとする数学的な見方や考え方を育てるために

- 問題解決的な学習過程を重視し、自力解決はもちろんのこと、小集団学習での話し合いの視点を明確することにより、互いに考えを広げ発展する場を設定する。
- 評価規準や評価方法を具体的に設定して計画的に評価し、ある程度の長いスパンで個々の変容を見取り、個に応じた指導に生かす。

基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着

基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着を図るために

- 使う用語・記号や公式を丸暗記させるのではなく、観察、操作や実験などにより、その概念や意味を、実感を伴って理解できるようにする。
- 全国学力・学習状況調査や県学力診断調査などを基に、課題（例 「二元一次方程式の解の意味」「資料の活用」など）を明確にし、授業改善に取り組む。

指導内容の系統性や関連性を意識した指導

習得した知識や技能の確かな定着を図り、それらを主体的に活用する力を育てるために

- 小中学校及び高等学校の指導内容の系統性を十分に理解し、指導内容をなだらかに発展させたり、学び直しの機会を設けたりする。
- 単元末などで、他の単元や領域等の指導内容と関連付けて、課題解決したり判断したりする場を設定する。

中学校【理科】

問題を見だし、設定する力の育成

問題を設定する力を育成するために

- 自然の事物・現象に進んでかかわり、素朴な概念や疑問をもたせるよう体験活動などを重視する。
- 素朴な概念や疑問から、教師の適切な働き掛けによって、仮説を立てたり結論付けたりすることができる問題を設定する。

科学的に探究する学習活動の充実

習得した知識や技能を活用し、科学的な思考力や表現力を育成するために

- 観察・実験の時間や探究する時間などを設けるとともに、継続的な観察活動を充実させる。
- 問題解決学習に体験活動や言語活動を意図的に取り入れるなど、学習のプロセスを大事にする。
- 自然の事物・現象について実感を伴った理解ができるような学習活動を行う。
- 実社会・実生活との関連を重視し、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させ、科学への関心を高める。

中学校【音楽】

音楽の特性を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成

思考力・判断力・表現力を育み、「分かった、できた」と実感できる授業をつくるために

- 表現領域では、音楽的な感受を基に、必要な技能を身に付け、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて、一人一人が思いや意図をもつ過程を大切にする。
- 鑑賞領域では、音楽を解釈したり価値を考えたりする過程を大切にする。また、音楽を聴いて、「音楽を形づくっている要素」「自分が感じ取ったこと」「自分の判断」の三つを基に、言葉で表したり批評したりする活動を充実させる。

目標・指導・評価の一体化

年間指導計画と、題材ごとの指導計画の整合性、一貫性を確かなものにするために

- 育てたい力を明確にする。
- ①題材の目標、②指導事項と〔共通事項〕、③指導内容、④教材、⑤評価規準と評価方法、⑥学習活動の展開と評価の位置付けにズレやブレがないか見直しを行う。
- 「ただ楽しい授業」でなく、「真に楽しい音楽の授業」となるよう、子どもたちの具体的な姿を想定して指導計画を立て、一人一人をしっかりと見取って評価する。

中学校【美術】

創造的な学習活動の展開

自らつくり出す喜びや表現する楽しさを味わう創造的な学習活動を展開するために

- 素材や表現方法における工夫など、学習への関心や意欲を高める指導を授業に位置付ける。
- 「水彩絵の具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫している」など、具体的な評価規準を設定して、その時間の目標を生徒に分かりやすく示すとともに、評価したことを生徒に返し、指導に生かすようにする。

目標・指導・評価の一体化

目標・指導・評価の一体化を図るために

- 年間指導計画と共に、題材ごとに評価計画を立て、活用する。
- 批評し合う活動を取り入れるなど、意欲をもたせる手立てを考え、そこに現れる生徒の姿を、評価規準に基づいて記録に残す。

中学校【保健体育】

体づくり運動の趣旨を生かした指導の充実

体づくり運動の趣旨（運動の楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画を立て取り組むなど）を生かした指導の充実を図るために

- 生徒の学習の状況や身体能力等を踏まえ、独立した単元として授業づくりを工夫する。
- 他の運動領域においても、体づくり運動の趣旨を踏まえた導入について、研究・実践する。

授業改善の推進

豊かなスポーツライフを実現する基礎を育む授業とするために

- 個に応じた段階的な指導により、知識や技能の確かな習得を図る。
- 指導した内容を基に、運動の取り組み方や健康・安全について考えさせる問題解決的な学習の場面を設定する。

中学校【技術・家庭（技術分野）】

技術（technology）を評価・活用する能力の育成

技術を評価し活用する能力を育成するために

- 生徒の実態を踏まえて、どのようなものづくりに取り組ませ、どのような技術を評価・活用させるのかを検討し、題材の指導計画に位置付ける。
- 多くの人々が求める技術を開発したり、既存の技術を活用して新しい価値を創造したりするなど、開発者の視点をもった学習活動を重視する。
- リサイクルや発電、農業、計測制御などの具体的な技術を取り上げ、環境や安全、経済活動への影響などの側面から課題を見いだし、その活用の在り方を考えさせる。

技術分野の特質を踏まえた言語活動の充実

技術分野の特質を踏まえた言語活動を充実するために

- 身の回りの製品や作品などから、設計上の工夫点などを読み取る活動を取り入れる。
- 製作図や回路図、栽培計画、フローチャートなどを使って自分の考えを表現したり検討・修正したりする活動を行う。
- グループでの発表や検討のための話し合い活動を意図的に設定する。
- 生徒の思考の流れに沿ったワークシートを工夫する。

中学校【技術・家庭（家庭分野）】

実践的・体験的な学習活動の充実

家庭分野の学習で育てたい資質、能力を確実に身に付けさせるために

- 授業や題材の中で、学習指導要領のどの指導項目や指導事項を指導するのか、育てたい資質、能力は何であるかを明確にしておく。
- 実感を伴った理解を深める実践的・体験的な活動を題材の中に計画的に取り入れる。（何を理解させたいか、そのためにどのような活動が適切かを考える。）
- 実践的・体験的な活動の結果や感想を基に、考えさせる指導を工夫する。

実践的な態度の育成

学習したことが家庭での実践に生かされるようにするために

- 自分の生活と結び付けて学習できるよう、問題解決的な学習を充実する。また、実践後に成果や課題を明確にする。
- 学習したことを活用する場を意図的に設定する。
- 通信やホームページで家庭分野の学習について知らせるなど、家庭や地域との連携を積極的に図る。

中学校【外国語】

英語によるコミュニケーション活動の充実

英語によるコミュニケーション活動の充実を図り、コミュニケーション能力の基礎を養うために

- 英語を用いて、生徒が互いの考えや気持ちを伝え合う活動などを取り入れ、伝えたいことや伝える目的のあるコミュニケーション活動を工夫する。
- 生徒の興味・関心に沿った内容を工夫し、英語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを実感させる。
- 生徒の理解を確かめながら、積極的にクラスルームイングリッシュを活用する。

生徒が達成感を実感できる指導と評価の工夫

生徒が自信をもって英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や英語の運用力を育てるために

- 身に付けさせたい力を明確にした上で、指導計画や評価計画を立てる。
- 形成的な評価を効果的に行い、個々の生徒の学習状況を的確に把握して指導に生かす。
- 生徒が、「できたこと、できるようになったこと」を自覚できる評価や声掛けなどを工夫する。

中学校【総合的な学習の時間】

探究の過程における体験活動の充実

体験活動を充実するために

- 比べて考えるような体験活動を位置付けることにより、生徒に「どこがどう違うか」「どうして違うか」などの問題に気付かせ、課題の設定につなぐ。
- 地域の伝統芸能に携わる人などとの出会いから、生徒が対象のよさや価値を実感してあこがれを抱く体験を大切にし、課題意識を高める。
- 探究的な調査が可能な対象を選び、体験活動によって情報を収集する場をつくる。
- 体験活動で得た音やにおいなどの感覚的な情報を作文などで言語化し、蓄積することで、探究活動に生かす。

妥当性・信頼性のある評価の実施

生徒にどのような資質や能力及び態度が育まれているのか、生徒は何を学び取っているのかを生徒の学習状況から丁寧に見取り、評価するために

- 学習活動と評価規準に整合性をもたせる。
- よりよく問題を解決する資質や能力、主体的・創造的・協同的に取り組む態度など、生徒の多様な姿を幅広く評価する。
- 自己評価や相互評価の状況を記した評価カード、レポートや作文など、多様な評価方法を取り入れる。
- 評価の回数を観点ごとに偏りなく確保するように評価計画を立てる。

中学校【道徳】

道徳の時間の特徴を踏まえた指導の充実

道徳の時間の特徴を踏まえ、生徒一人一人が道徳的実践力を身に付けるための指導を充実するために

- 生徒一人一人が自己を見つめる発問を工夫する。
- 補充、深化、統合の役割を意識した指導過程を工夫する。
- 先人の伝記や文化、スポーツなどを題材とした、魅力的な教材の開発や活用を促進し、生徒が感動を覚えるような授業を工夫する。

温かい人間関係の構築

学級での温かい人間関係を基盤にした道徳の時間の指導を行うために

- 生徒の成長を見守り、生徒の道徳性を共感的に理解する。
- 支持的風土のある学級経営に努める。
- 生徒と共に考え、悩み、感動を共有し、学び合う姿勢をもつ。

中学校【特別活動】

話し合い活動の充実

生徒全員が主体的に参加できる話し合い活動を実践するために

- 教師の適切な指導の下、計画委員会を運営する。
- 生徒が話し合う必要性を感じることができる題材を設定する。
- 育成すべき話し合い活動の能力について、小中学校間で共通理解を図り、計画的に指導する。

活動意欲を高める評価

生徒の活動意欲を喚起する評価を行うために

- 活動の中で目指す生徒の姿や評価方法を明確にし、評価シートを活用するなどして効果的に評価を行う。
- 活動の過程における生徒の努力や意欲等を積極的に認め、生徒が自信をもって次の活動に取り組めるようにする。